

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-292016

(43)公開日 平成5年(1993)11月5日

(51)Int.Cl.⁵

H04B 7/26

識別記号

109 D 7304-5K

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全5頁)

(21)出願番号

特願平4-91152

(22)出願日

平成4年(1992)4月10日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 小林 健男

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

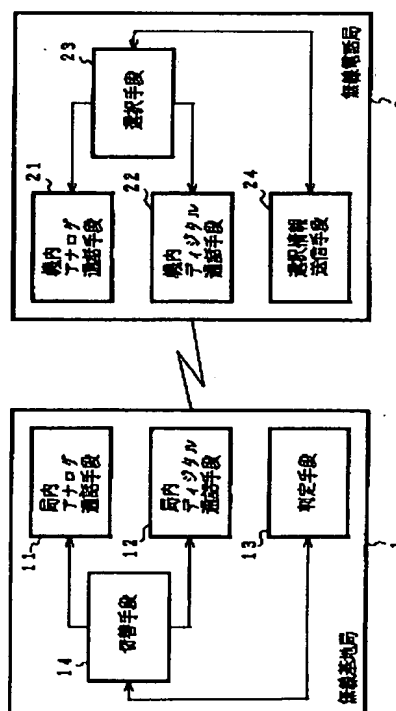
(74)代理人 弁理士 井出 直孝

(54)【発明の名称】 無線電話方式

(57)【要約】

【目的】 無線電話機側から能動的にアナログ通話またはデジタル通話のいずれかの通話方式を選択可能にすることを目的とする。

【構成】 アナログ通話およびデジタル通話の両方の通話に対応できる無線電話機2に、アナログ通話要求信号を発行する手段23および24を備え、無線基地局1に、アナログ通話要求信号の到来の有無を判断する手段13と、この判断でアナログ通話要求信号の到来が無かった場合にデジタル通話方式を設定し、有った場合にアナログ通話方式を設定する手段14とを備えたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 与えられる通話方式選択情報に応じて局内アナログ通話手段または局内デジタル通話手段のいずれか一方を選択する切替手段を含む無線基地局と、この無線基地局に接続され、機内アナログ通話手段および機内デジタル通話手段を含む無線電話機とを備えた無線電話方式において、

上記無線電話機は、自機の機内アナログ通話手段または機内デジタル通話手段のいずれか一方の通信手段を選択する選択手段およびこの選択手段で選択された通話手段を示す情報を通話方式選択情報として上記無線基地局に送信する選択情報送信手段を含むことを特徴とする無線電話方式。

【請求項2】 上記通話方式選択情報は、上記無線基地局と上記無線電話機との間の通話をアナログ通話で実行する要求を示す要求信号であり、上記無線基地局は、この要求信号の有無を判定する判定手段を含み、上記切替手段は、この判定手段が要求信号の有を判定したときに上記局内アナログ通話手段を選択し、無を判定したときに上記局内デジタル通話手段を選択する手段である請求項1記載の無線電話方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、無線電話システムに利用する。特に、アナログ通話またはデジタル通話を選択する手段に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のアナログ通話と音声信号をデジタル信号に変換して通話するデジタル通話とが混在する無線電話システムでのアナログ通話またはデジタル通話の通話方式の選定は、図3に示すように、無線電話基地局の側がステップS201で無線電話機（端末）の種類を判断し、アナログ通話のみ可能な無線電話機についてはステップS202でアナログ通話方式を設定し、アナログ通話とデジタル通話との両方が可能な無線電話機に対してはステップS203でデジタル通話方式を設定するように制御している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来例では無線電話基地局側が無線電話機の種類を判定して通話方式を設定しており、無線電話機側がアナログ通話とデジタル通話との両方の通話方式に対応できたととしても無線電話機から通話方式を指定することができないので、無線電話機側から通話品質の良いアナログ通話方式を指定することや、盗聴を防止する秘話機能を有するデジタル通話方式を指定して使うことができない欠点があった。

【0004】本発明は、このような欠点を除去するもので、無線電話機側から能動的にアナログ通話またはデジタル通話のいずれかの通話方式を選択可能にする手段

をもつ無線電話方式を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、与えられる通話方式選択情報に応じて局内アナログ通話手段または局内デジタル通話手段のいずれか一方を選択する切替手段を含む無線基地局と、この無線基地局に接続され、機内アナログ通話手段および機内デジタル通話手段を含む無線電話機とを備えた無線電話方式において、上記無線電話機は、自機の機内アナログ通話手段または機内デジタル通話手段のいずれか一方の通信手段を選択する選択手段およびこの選択手段で選択された通話手段を示す情報を通話方式選択情報として上記無線基地局に送信する選択情報送信手段を含むことを特徴とする。

【0006】ここで、上記通話方式選択情報は、上記無線基地局と上記無線電話機との間の通話をアナログ通話で実行する要求を示す要求信号であり、上記無線基地局は、この要求信号の有無を判定する判定手段を含み、上記切替手段は、この判定手段が要求信号の有を判定したときに上記局内アナログ通話手段を選択し、無を判定したときに上記局内デジタル通話手段を選択する手段であつても良い。

【0007】

【作用】無線基地局は、アナログ通話およびデジタル通話の両方の通話方式に対応できる無線電話機からの通話方式選択情報を受信すると、アナログ通話要求信号の有無を示す情報を判断し、この判断でアナログ通話要求信号が無かった場合にはデジタル通話方式を設定し、有った場合にはアナログ通話方式を設定してこの無線電話機との通話を行う。

【0008】

【実施例】以下、本発明の一実施例について図面を参照して説明する。

【0009】この実施例は、図1に示すように、与えられる通話方式選択情報に応じて局内アナログ通話手段11または局内デジタル通話手段12のいずれか一方を選択する切替手段14を含む無線基地局1と、この無線基地局1に接続され、機内アナログ通話手段21および機内デジタル通話手段22を含む無線電話機2とを備え、さらに、本発明の特徴とする手段として、無線電話機2は、自機の機内アナログ通話手段21または機内デジタル通話手段22のいずれか一方の通信手段を選択する選択手段23およびこの選択手段23で選択された通話手段を示す情報を通話方式選択情報として無線基地局1に送信する選択情報送信手段24を含む。ここで、通話方式選択情報は、無線基地局1と無線電話機2との間の通話をアナログ通話で実行する要求を示す要求信号であり、無線基地局1は、この要求信号の有無を判定する判定手段13を含み、切替手段14は、この判定手段13が要求信号の有を判定したときに局内アナログ通話手段11を選択し、無を判定したときに局内デジタル

通話手段12を選択する手段である。

【0010】次に、この実施例の動作を図1および図2に用いて説明する。無線電話機2で専用ボタン等で設定された要求信号が無線基地局1の判定手段13に到来すると、この判定手段13は無線電話機の種類を判断し（ステップS101）、アナログ通信のみが可能な無線電話機についてはアナログ通信方式に設定し（ステップS103）、アナログ通信とデジタル通信の両方の通信方式に対応できる無線電話機については要求信号の有無を判断し（ステップS102）、この判断で要求信号がなかった場合はデジタル通信方式を設定し（ステップS104）、有った場合はアナログ通信方式を設定する（ステップS103）。

【0011】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように、無線電話機からアナログ通信要求信号を送出し、無線電話基地局側でその要求を検出して通話方式を設定するので、無線電話機側の能動的選択で通話品質の良いアナログ通話

または秘話機能を有するデジタル通話のいずれの通話も可能にする効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例の構成を示すブロック構成図。

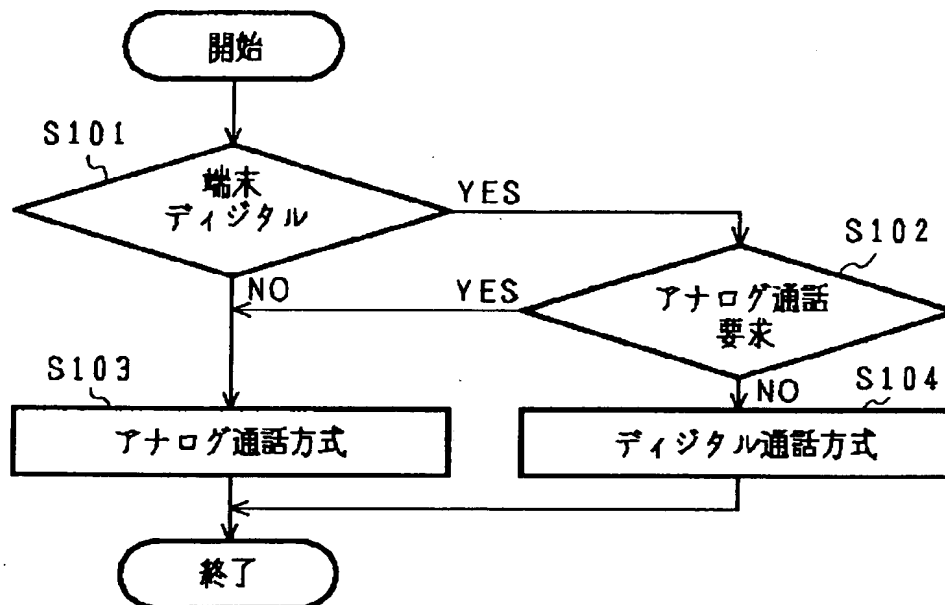
【図2】本発明実施例の動作を示すフローチャート。

【図3】従来例の動作を示すフローチャート。

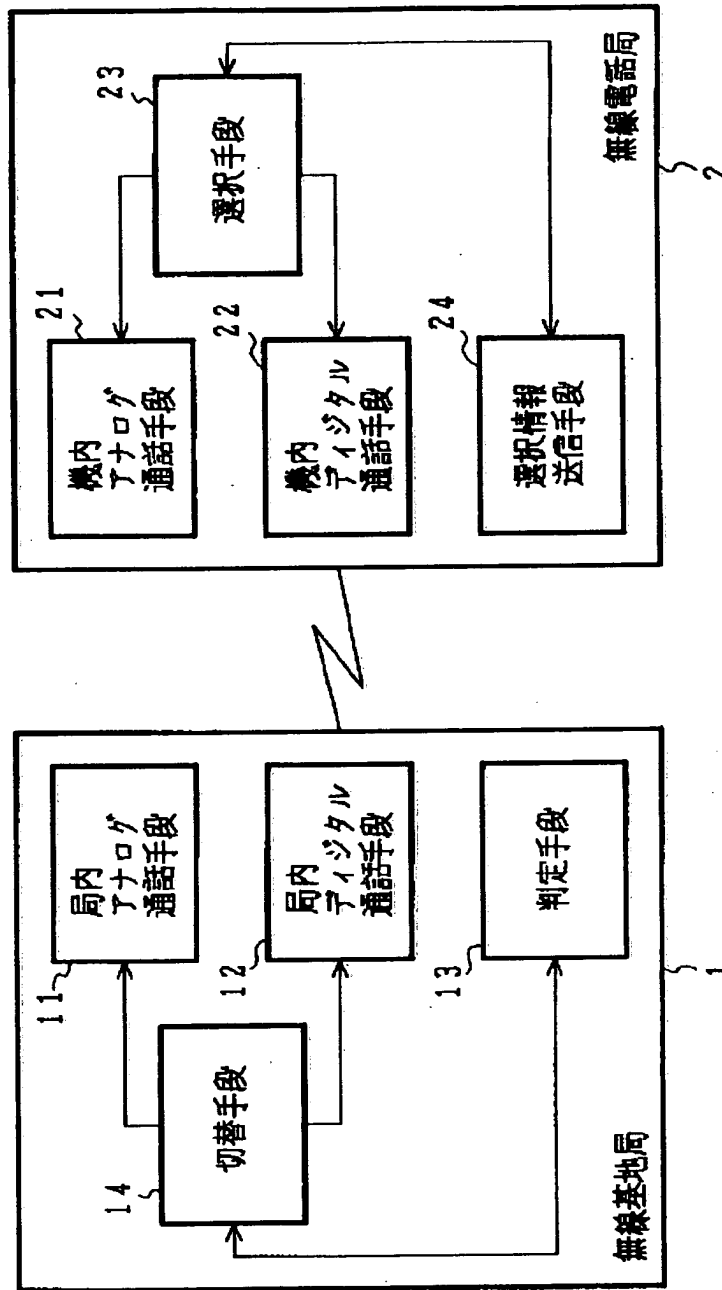
【符号の説明】

- | | |
|----|---------------|
| 1 | 無線基地局 |
| 2 | 無線電話機 |
| 10 | 11 局内アナログ通話手段 |
| | 12 局内デジタル通話手段 |
| | 13 判定手段 |
| | 14 切替手段 |
| | 21 機内アナログ通話手段 |
| | 22 機内デジタル通話手段 |
| | 23 選択手段 |
| | 24 選択情報送信手段 |

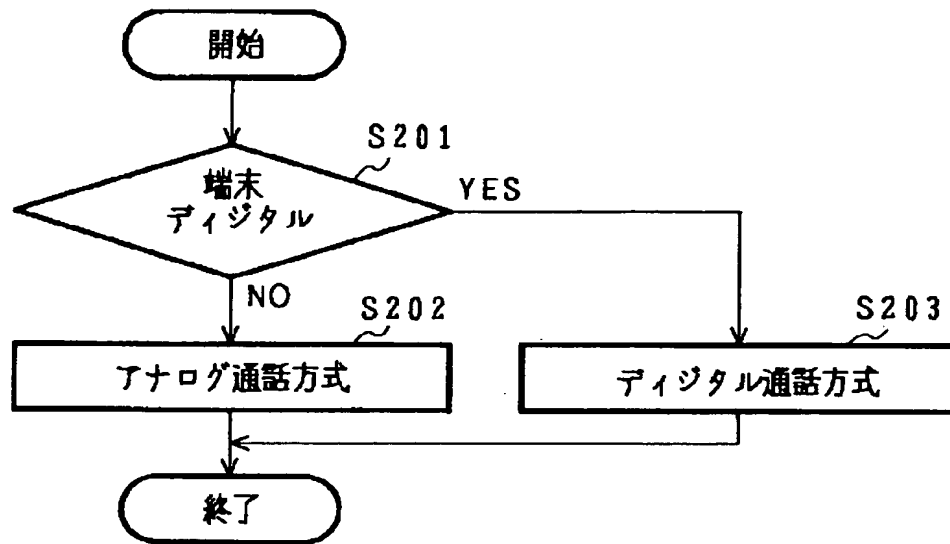
【図2】



【図1】



【図3】



This Page Blank (uspto)